

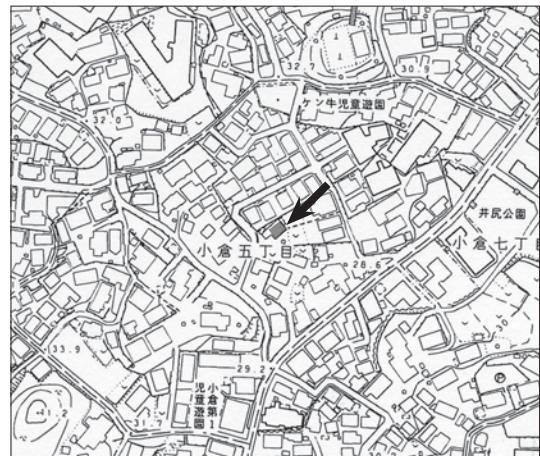
2 ケン牛遺跡（1次調査）

所在地 春日市小倉5丁目70番

調査面積 76.9m²

調査期間 2013年5月31日～7月9日

春日市の中北部に位置するケン牛遺跡は須玖遺跡群の一角を占める遺跡であり、春日丘陵中央部付近の緩斜面上に立地している。当地付近は旧地形図などから遺跡の存在は推測されていたが、発掘調査が行われたことはなく、平成19年の試掘調査によって遺跡の存在が確認された。



1. 調査地の位置 (1/5000)

当調査が行われるまでは遺跡の性格などはほとんど分かっていなかったため、周辺にある柚ノ木A遺跡や仁王手A遺跡などから弥生時代中～後期の集落が検出されることを念頭に調査を行った。

今回の調査は個人専用住宅建設に伴う緊急発掘調査である。



2. 調査区全景 (南西から)

遺構・遺物

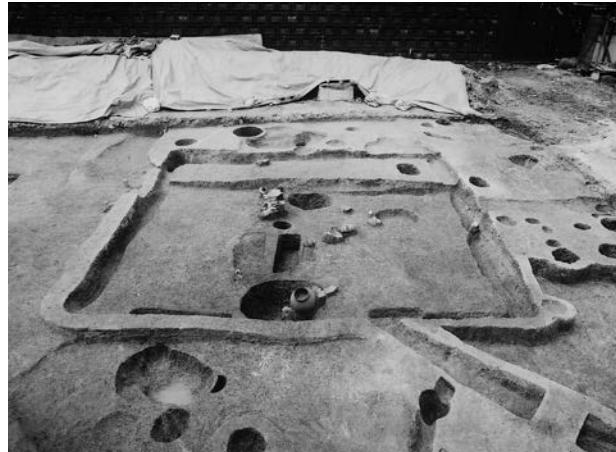
確認調査では多くの土器が出土しており、弥生時代の包含層が確認されていた。当地はすでに宅地や畠地として利用されており、数十cmの表土や耕作土を除去すると北側では赤～黄褐色の地山を検出し、遺構が確認された。しかしながら、調査区中央部付近では、弥生時代の包含層が確認され、そこから遺構が掘り込まれていた。今回の調査で検出した遺構は竪穴住居跡3軒、土坑5基、溝2条と多数のピットである。以下では、主な遺構について記述する。なお、遺構検出面の標高は30m前後である。

住居跡は調査区の中央から西部にかけて3軒を検出した。中央部に位置する1号住居跡は全体を確認することができた。平面形は方形で、北壁に沿ってベッド状遺構が設置されており、ベッド状遺構の上から刀子と思われる鉄器が出土した。主柱穴は南北方向に2つが確認され、その間に炉跡がある。貼り床下には両主柱穴を結ぶような溝状の土坑が掘り込まれていた。炉

の下であることや当地が大変水捌けの悪い土地であることを考慮すれば、防湿を目的とした施設の可能性がある。完形に復元できるような土器が出土し、弥生時代終末期の住居と分かる。2号住居跡は調査区西壁付近で検出した。多くが調査区外にあるために詳細は不明だが、出土土器から1号住居跡と同様に弥生時代終末期の住居と考えられる。3号住居跡は1・2号住居跡に切られていた。残存部が少なく、土器も少量のために詳細は不明であるが、中期まで遡る可能性がある。土坑のうち1・2・4号土坑は弥生時代。3号土坑は残りが悪いが黒色土器が出土するため中世と考えられる。

小 結

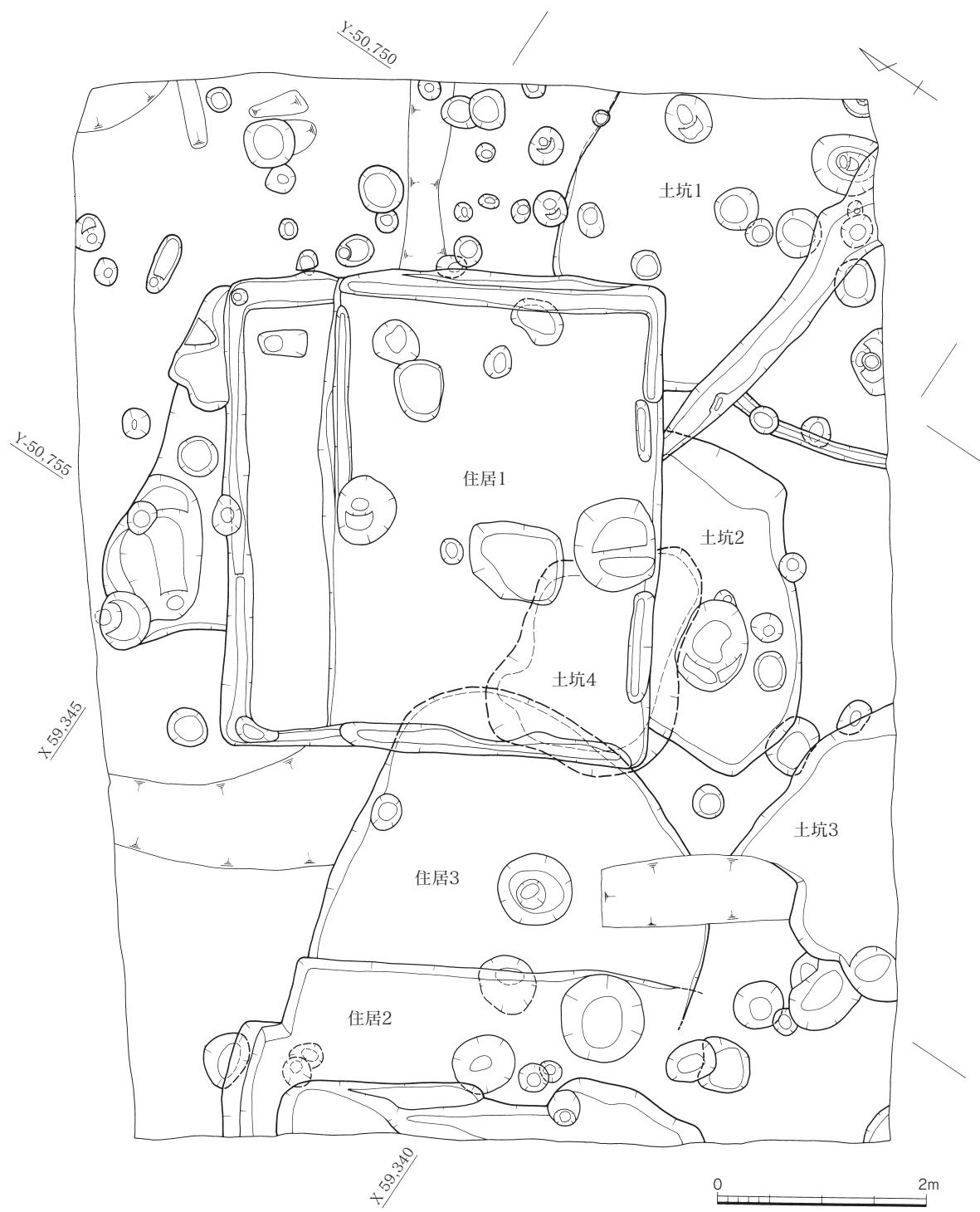
上述したようにケン牛遺跡は、新たに確認した遺跡であり、今回の調査は小規模なものではあったが、弥生時代を中心とする遺物・遺構を確認することができた。ケン牛遺跡は須玖遺跡群の一角を占めており、今後、遺跡がどこまで遡り、どのような遺構が確認されるのかを注目したい。（井上）



3. 1号住居 土器出土状態（南から）



4. 1号住居 壺出土状態（西から）



5. 遺構配置図 (1/60)